

(アーバンデザインスクール前期)

別紙①

	1	2	3	4	5
開催日時	6/16 (土) 10:30~12:00	7/21 (土) 10:30~12:00	8/25 (土) 10:30~12:00	9/29 (土) 10:30~12:00	10/27 (土) 10:30~12:30
テーマ	草津の歴史と自然 (カルチャー)	草津市の歴史的建造物 (ストラクチャー)	地域文化のストーリーのつくりかた (ストーリー)	快適に歩ける歩行空間 (ストリート、プレイス)	ワークショップ「歩いて巡りたくなる地域」のアイデア
概要	草津市の歴史と自然、特に地形の変化と有形無形の文化財との関係を解説いただいた。	草津市内に残る歴史的建造物の特長について、地域の文化や歴史、当時の地形等に触れながら、解説いただいた。	地域の有形無形の文化財を核に、地域文化のストーリーを描く「日本遺産」など、全国の取組事例の御紹介と、地域固有のストーリーの作り方を解説いただいた。	快適に歩ける歩行空間、ルートの途中にある“休んだり、交流できる賑わい空間”、ストリートにあるサインやストリートファニチャー等について解説いただいた。	4回までの講義を踏まえ、グループで草津市内の任意の場所をモデルに「歩いて巡りたくなる地域」のアイデアを考えた。
話題提供者	馬場将史氏 草津市教育委員会文化財保護課	青柳憲昌氏 立命館大学理工学部准教授	丁野朗氏 東洋大学大学院国際観光学部客員教授	石川亮氏 成安造形大学付属近江学研究所准教授	藤井健史氏 立命館大学理工学部助教
参加人数	23人	23人	15人	22人	21人

※及川センター長にコーディネーターを務めていただいた。

(アーバンデザインスクール後期)

	1	2	3	4	5
開催日時	11/21 (水) 18:30~20:00	12/5 (水) 18:30~20:00	1/9 (水) 18:30~20:00	2/22 (金) 18:30~20:00	3/20 (水) 18:30~20:00
テーマ	情報と都市	人工知能の今	都市情報と建築不動産ビジネス	都市情報とテクノロジー	情報と都市政策
概要	モノの世界、情報の世界の間に見え始めた第三の世界「コモングラウンド」の可能性について建築や都市のあり方と関連づけて解説いただいた。	人とAIが混在する系で、会話の理解と拡張を目的とする、会話情報学での「コモングラウンド」への取組について解説いただいた。	建築不動産の領域と情報テクノロジーの活用アイデアについて解説いただいた。	多様なデジタル世界と将来的な生活環境について、システムやハードウェアの専門家による最新の研究の紹介を踏まえて、現状分析および将来展望を解説いただく。	情報技術の発展が実際の都市政策において、私たちの身近な生活にどのように反映できるのか、また、どのような課題があるのかについて解説いただく。
話題提供者	豊田啓介氏 建築家/noiz 共同主宰/ gluon 共同主宰	西田豊明氏 京都大学 大学院教授	黒田哲二氏 UDS 株式会社 執行役員	西尾信彦氏 立命館大学教授  服部宏充氏 立命館大学 准教授	四塚善弘氏 滋賀県 土木交通部管理監  辻野恒一氏 滋賀県土木交通部 技監
参加人数	39人	36人	19人		

※第2, 4, 5回には聞き手として豊田啓介氏が参画。

※武田副センター長にコーディネーターを務めていただいた。

## (未来創造セミナー)

## 別紙②

	1	2	3	4	5
開催 日時	7/24 (火) 13:30～15:30	8/24 (金) 18:30～20:00	9/11 (火) 13:30～15:30	10/19 (金) 16:00～17:30	11/6 (火) 14:00～16:00
テーマ	わたしがつくる 健幸都市くさつ ～草津の課題分 析・未来構想を 考える～	未来を創るひ との健幸づく り～IoTが創 るみらいのカ ラダ・健康～	SDGs からみる 未来のまちづ くり イノベーショ ンから SDGs を考える	チャレンジ!! オープンガバ ナンス (COG) 2018 ～アイデアを 生み出す市民 と行政の連携 の場づくり～	SDGs からみる 未来のまちづくり SDGs は環境・社 会・経済の“三方 よし”
概要	現在の草津市の 状況と統計情報 から推測される 2040 年に健幸 都市を実現する ために何をすれ ばいいかを考え た。	センシング技 術とデータ流 通により、バ イタルサイン と日常の活動 との関係が明 らかになった 時、人々の生 活がどのよう に変わるかを 考えた。	SDGs の考え 方がイノベー ションを引き 起こすことを デザイン思考 、デザインド リブンイノー ションの理論 から説明いた だいた。	本市は 3 年連 続で COG に参 加したことか ら、COG2018 の 簡単な説明と アイデアを生 み出す市民と 行政の連携の 場づくりにつ いて説明いた だいた。	滋賀県商工労働 部、土木交通部 の政策を事例に、 SDGs の視点を取り 入れることによ り、どのように政 策が変わったの かを説明いただ いた。
話題 提供者	山元圭太氏 合同会社喜代七 代表	李相烈氏 オムロン 株式会社 (関係課： 健康福祉政策課)	建山和由氏 立命館大学 理工学部教授	奥村裕一氏 東京大学公共 政策大学院 客員教授	森口誠人氏 滋賀県商工政策課 湯浅まゆ氏 滋賀県都市計画課
参加 人数	20 人	21 人	23 人	20 人	20 人

	6	7	8	9	10
開催日時	12/7 (金) 18:00~20:00	11/17 (土) 10:30~15:00	12/15 (土) 14:00~16:00	3月上旬 開催予定	1/19 (土) 14:00~15:30
テーマ	SDGs からみる 未来のまちづくり SDGs で地域 社会をイノベート!	植本祭の練習会 ~おすすめた い本を持参して まちライブラリー を体験しよう!!~	植本祭企画ワ ークショップ ~みんなでつ くる植本祭~	植本祭 (現在、企画 中)	南草津駅はこう してできた
概要	民間企業の代表として従来からCSR(企業の社会的責任)に取り組んでいた滋賀銀行がSDGsという新たな視点を取り入れることによって、何が変わったかを豊富な事例とともに説明いただいた。	第1部には、磯井氏にまちライブラリー誕生の経緯や全国各地のまちライブラリーの事例を説明いただいた。第2部には、まちライブラリーを運営するにはどのようにすれば良いか、何がポイントになるかを話し合った。	神戸・東遊園地で実施されているURBAN PICNICでのアウトドアライブラリーの取組を紹介いただき、JR南草津駅西口広場公園をフィールドとした場合のワークショップを行った。	未来創造セミナー第7,8回の内容を受けて、JR南草津駅西口広場公園で参加者が本を持ち寄り、本棚を作り上げる植本祭を実施する。	JR南草津駅誕生のエピソードを当時の設計者から語っていただき、時代とともに変わったもの、変わらないものについて当時の様子を説明いただいた。
話題提供者	嶋崎良伸氏 株式会社 滋賀銀行 CSR 室長	磯井純充氏 まちライブラリー 提唱者  立命館大学 理工学部生	山内菜都海氏 リバブルシテ ィ研究家  黒田晴美氏 コーチングオ フィス AUBE PROJET 代表  立命館大学 理工学部生	立命館大学 理工学部生	岡村栄子氏 JR西日本コン サルタンス環境 デザイン部長  小島伸一氏 JR西日本デイ リーサービスネ ット工務部長
参加人数	20人	9人	5人	人	18人

	11	12
開催 日時	2/9 (土) 14:00~15:30	3/2 (土) 14:00~15:30
テーマ	これからの地域公共交通のあり方について	南草津駅周辺のこれまでとこれから
概要	滋賀県の地域モビリティの現状と課題および公共交通を取り巻く課題・取組について説明いただいた。	(現在、企画中)
話題 提供者	芝久生氏 滋賀県交通戦略参事	田邊好彦氏 草津市都市再生課参与
参加 人数	30 人	人

(社会実験事前調査事業)

別紙③

	1	2	3
大学名	立命館大学 観音寺納豆再現プロジェクト	立命館大学 EDGE SPROUT	滋賀医科大学 医学部看護学科 公衆衛生看護学講座
テーマ	日本遺産「水と祈りの水辺景観」 芦浦観音寺観音寺納豆再現プロジェクト	歩きやすいまちを実現するためのIoT自転車を活用した調査	高齢期に想定されるリスクを考え、“幸せな人生”のあり方をアップデートするためのリスク対応能力涵養のためのアナログゲーム開発事業
概要	観音寺納豆を再現するため、芦浦観音寺にある古文書の観音寺納豆に関する記載内容の調査を行う。	IoT自転車を活用し、歩きやすいまちを実現するための基礎データ（速度、ブレーキをかけた場所、走行ルート等）を収集する。	アナログゲームを通じて、家族みんなで高齢期に想定されるリスクを考え、回避のための行動を考える機会を提供する。

業務委託期間：～平成31年2月28日

1月末までに事業を完了し、成果報告書を提出。

2/23（土）（予定）に成果報告会をUDCBKで実施する。

(その他事業)

別紙④

	1	2	3	4	5
開催日時	5/23 (水) 13:00~14:30	7/11 (水) 17:00~18:30	7/12 (木) 13:30~15:00	8/31 (金) 18:30~20:00	9/5 (水) 18:00~20:00
テーマ	UDCBK×草津商 工会議所×草津 おみやげ隊 草津、いいもの、 みんなではな そ!~草津のい いものを発掘 し、草津ブラン ドを育てましょ う!~	市長と「食」と 学生生活を語ろ う	COG2018 に関す る市長、奥村先 生、市民団体、 市職員との意見 交換会	重点プロジェ クトをみんな で考えるオー プンワークシ ョップ in UDCBK	UDCBK×SDP デザイントーク セッション Observation× Construction
概要	「草津にはいい ものがあるけ ど、地元で知ら れ、使われている のか?」とい う声を契機にし て、「ふるさと企 業いいもの発掘 市」を開催され、 そのエピソード と草津市内で草 津おみやげ隊と して活動されて いる方のお話を お聞きした。	今年度4月に開 設した立命館大 学食マネジメント 学部生を中心 に、橋川市長か ら健幸都市、食 に関するポテン シャルおよび食 マネジメント学 部に期待するこ とを話され、市 長と学生が 「食」と学生生 活について話し 合いをされた。	COG2018 の運営 コーディネータ ーである奥村先 生から COG2018 について説明い ただき、参加者 と話し合った。	草津市文化振 興計画の重点 プロジェクト について、市 民と職員が一 緒に考えるワ ークショップ を実施した。	2014 年に立命 館大学院に新設 された建築実務 型大学院プログ ラム(SDP)の一 環として、第一 線で活躍する建 築家から事例紹 介を交えて説明 いただいた。
話題 提供者 等	成亥史一氏 草津商工会議所 中小企業相談所 業務指導課  大塚佐緒里氏 草津おみやげ隊 代表	橋川市長  小沢道紀准教授 立命館大学 食マネジメント 学部  立命館大学生	橋川市長  奥村裕一氏 東京大学 公共政策大学院 客員教授  市民団体等 市職員	木下達文氏 京都橘大学	NigelBertram 氏 モナッシュ大学 アートデザイン 建築学部教授  鈴野浩一氏 トラフ建築設計 事務所
参加人数	30 人	20 人	21 人	32 人	40 人

	6
開催日時	9/21 (金) 18:30~20:00
テーマ	ボードゲームで 楽しく知る 異文化で育った 人の草津の ‘ くらし ‘ ～誰でもが住み やすい草津のま ちを考える～
概要	「やさしいにほんごさろん」特別版。立命館大学の学生が作ったボードゲームを楽しみながら、留学生の草津での暮らしを知り、まちづくりについて考える。
話題提供者等	立命館大学 SW2018 ボード ゲーム プロジェクト
参加人数	23人



(視察)

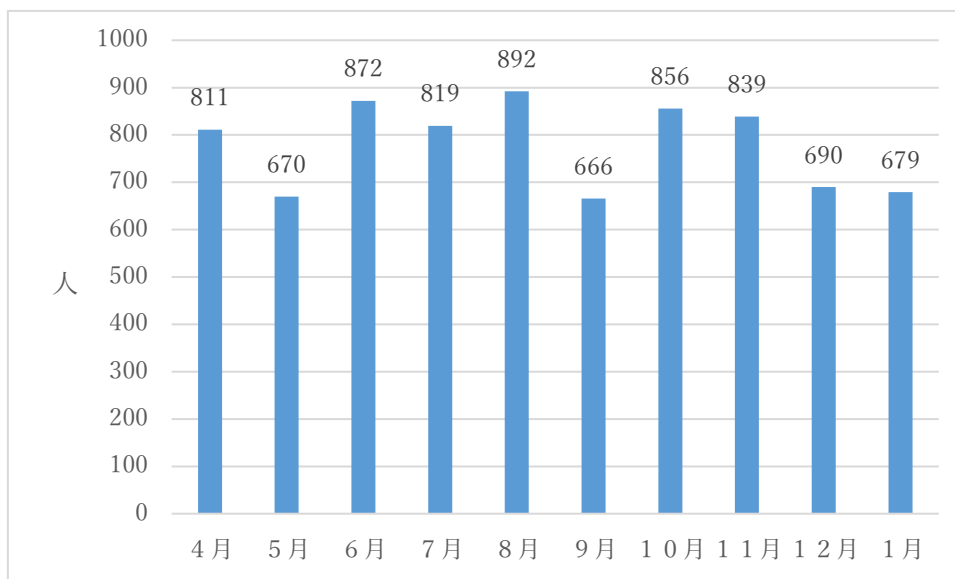
別紙⑤

	1	2	3	4	5
日時	5/16 (水) 14:30～15:30	6/26 (火) 17:00～18:30	7/4 (水) 14:40～15:20	7/25 (水) 16:00～16:15	7/31 (火) 13:00～14:00
相手先	宮城県 名取市議会	柏の葉アーバン デザインセンタ ー (UDCK)	新潟県 柏崎市議会	草津市議会 大津市議会	追手門学院大学
人数	9人	5人	12人	20人	3人

	6	7	8
日時	10/25 (木) 14:30～15:30	1/23 (水) 13:00～15:00	1/24 (木) 15:00～15:30
相手先	東京都 足立区議会	長野県 長野市議会	埼玉県 上尾市議会
人数	10人	12人	14人

(オープンスペース利用者数)

別紙⑥



(運営懇話会の議論内容および法人化に対する運営懇話会委員意見 (一部抜粋))  
(議論内容)

#### 1. アーバンデザインセンターびわこくさつ事業法人化ワーキング部会設立について

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)(以下、「UDCBK」という。)は平成26年度の草津未来研究所による大学と地域の連携に関する調査研究報告において、南草津のまちづくりにおける産学公民連携のプラットフォームの有用性としてアーバンデザインセンターの設立が提言された。そのことを受け、平成27(2015)年9月に大学地域連携強化プラン懇話会を立ち上げ、1年間で計7回開催し、UDCBKの目指す姿や事業内容を議論した。そして、UDCBKは、平成28(2016)年10月に草津市の事業として、南草津フェリエ5階の草津市立市民交流プラザにて開設され、平成29年8月に西友1階フロアに移転し、事業活動を展開している。

法人化の議論については、第3回(平成28年2月12日開催)から開始されている。その間、草津市議会においては、平成28年3月の一般質問にて、UDCBKの組織形態に関する質問があり、その際に法人化の検討を進めていくと答弁している。また、平成29(2017)年3月議会の代表質問にて、UDCBKの自立化に向けての質問があり、平成29年度から法人化を見据えた検討を進めると答弁している。このような経緯から、平成29年11月にアーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業法人化検討ワーキング部会を立ち上げた。

#### 2. UDCBK 設立の背景と法人化の意義

##### (1)UDCBK 設立の背景

住民、民間企業、NPO、大学などが地域社会の諸課題の発見と解決に臨む取組みが全国的に増大している。これは、自立した個人がそれぞれの地域において多様な価値観、個性、創造性を最大限に発揮できる社会へ移行していくことの期待を背景にして、具体的な行動の表れであると考えられる。現在の地域社会においては、日本全体の超少子高齢社会が進展する中で、地方創生の取組みが全国的に推進されているが、その成果はこれからである。

さて、柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)が2006年に設立され、アーバンデザインセンター(UDC)が公・民・学連携の拠点となり、地域主体の都市デザイン推進拠点の発展を図る取組みが全国的な動きとして見られるようになってきた。現在(平成30年8月時点)で、17のUDCが設立されている。UDCK設立5周年において、「UDC AGENDA2011」が採択(参考資料)され、UDCは公・民・学連携の拠点となる、明確な目標と戦略を打ち立て実行する、常に具体のフィールドで活動する、都市空間のデザインを担う専門家が主導するなどが取組み方針として宣言された。

UDCBKは13番目のUDCとして平成28年10月に草津市の事業として設立された。これは、草津市において大学と地域の連携の一層の進展が草津市のまちづくり、とりわけ南草津のまちづくりに重要であり、そのための一つのプラットフォームとしてUDCという枠組みの有用性が認識されるようになったからである。

草津市は、草津駅とともに、南草津地域に駅をつくり、2つの拠点として発展していこうという長期的なビジョンを早くから掲げてきた。平成6(1994)年9月に南草津駅が開設され、南部新都心構想・計画は具体的な核となる駅を得て、また同年4月の立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開設によって、草津市南部地域の急速な発展を見るようになった。草津市は単に京都・大阪のベッドタ

ウンであるに留まらず、工業やサービス業の集積がみられ、湖南地域の拠点としての性格を有している。

草津市の急速な発展によって、従来から居住している市民と新たに他地域から移り住むようになった市民が混住している。草津駅および南草津駅周辺にはマンションが林立し、若いファミリー世帯が多く住むようになっているが、将来的にはマンション住民の高齢化が懸念されている。また、草津市においても高齢化が現在急速に進展しており、学区によっては高齢化の全国平均を上回るどころが存在している。さらに、立命館大学の学生を中心に多くの学生(約8,000人)が住む大学のまちとしての性格を有している。

いずれにせよ、草津市において今後の持続可能な地域社会を、市民が構想し、計画し、具体化していくためのプラットフォームとして、UDCBK が設立されたわけである。

## (2)UDCBK 法人化の意義

UDCBK は、まずは草津市の事業として発足したのであるが、現在、その事業を法人化するかどうかの検討を行っている。ここでは、法人化を行う意義があるのかどうか、あるとすれば法人化されたUDCBK はどのような役割を發揮することが可能であるのかについて整理する。

まず、市民のためのまちづくりを推進するには都市計画が必要である。都市計画とは、「都市の健全な発展と秩序ある整備を図るための土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に関する計画」(都計法第4条)であり、その理念は「農林漁業との健全な調和を図りつつ、健全で文化的な都市生活及び機能的な都市活動を確保すべきこと並びにこのためには適正な制限のもとに土地の合理的な利用が図られるべき」(都計法第2条)とされている。従って、市民がまちづくりを進めていく際の基本となる都市計画は、長期的な見通しが必要であり、見通しと具体的な知見を持って、様々な参画者に助言を行う専門家の参画が必要である。以下では、都市について空間・視覚的な関係を軸に、全体の形態や景観を整えていくことを重視する考え方から、都市計画ではなく、都市デザインと表現する。

草津市においても、行政(公)、市民や民間企業・NPO(民)、大学(学)が、20年後、40年後の都市のあり方をも見通しながら、まちづくりを推進していくための都市デザインが求められている。そのためには行政の取組みだけでなく、市民や民間企業・NPOなど多様な個人と組織の参画が重要とされている。参画は行政の提案する計画の賛否について意見を述べるにとどまらず、一人一人の市民や個々の企業やNPOの有する多様な考え方や意見を踏まえた計画の策定が求められている。また、地域に根ざしている大学の有する知的資源が積極的に活用されることが求められている。まちづくりを推進する都市デザインの策定には、多様な価値観、個性、創造性が必要であり、「公」が適切な役割を果たすとともに、「民」や「学」が積極的な役割を果たさなければならない。そのためには、「公」「民」「学」それぞれの視点や考え方を交流したり、融合したりする中立的なプラットフォームの役割を果たす組織が有効であると考えられ、それがUDCである。

UDCBK を法人化することによって、次の成果を得ることが期待される。「公」「民」「学」いずれの立場にも偏らない意見形成及び提言が可能になる。市民のための都市デザインを推進するにあたり、多様な価値観や個性や創造性を踏まえた意見形成を行うことは簡単なことではなく、特別のプラットフォームがあることがそのようなことを可能にする。また、草津市の都市デザインを策定するにあたり、長期的な見通しや利害関係について、率直に意見を交流し、選択肢の一つとしての提案を行うことは、行政組織としての草津市が計画を策定する際の参考になる。その際、社会実験手法

を活用することは有効な方法であると考えられ、UDC はその役割を果たすことが可能である。また、各種都市デザインに関するプロジェクトに UDC として参画することは、多様な意見を反映することが可能になる。以上から、UDCBK を法人化する意義があると考ええる。

### 3. UDCBK のミッション

UDCBK のミッションを改めて整理すると次のとおりである。「UDCBK は、草津のまちづくりの推進のために、「公」「民」「学」が多様な価値観、個性、創造性を基礎とした知見を持ち寄り、専門家の先導的助言を得つつ、長期的な見通しを持った都市デザインを構想し、必要な社会実験を行い、そのための学習と社会発信を行う。」ここでの「公」とは主に草津市、「民」とは草津市に住み・働き・学ぶ人々および草津市で事業活動を行う企業や NPO、「学」とは草津市で活動を行う高等教育機関を指す。

UDCBK は、UDC AGNEDA2011を指針とするとともに、全国にある UDC との交流を通じて、UDC としての役割と機能の高度化を図っていく。具体的には、UDC イニシアティブの提供する交流の場で経験に学ぶとともに、UDCBK の経験を全国に発信していく。

UDCBK は、草津市のまちづくりに係わる諸組織の取組みに学びながら、交流を行い、草津のまちづくりの発展に寄与する。UDCBK の都市デザインの構想と実験という固有の役割を適切に果たしつつ、まちづくりに係わる諸組織との経験を学び、自らの知見を提供し、交流の輪を広げていく。

(法人化に対する運営懇話会委員意見（一部抜粋）

- ・UDCBK 法人化の意義やミッションは提示されているとおりでと思う。また、主たる事業についても提示内容で今後吟味してもらいたい。
- ・課題やミッションを抱える中で、法人化後の運営収支が見えてこない。特に、収入が見えてこない中で法人化を急ぐ必要があるのかどうか疑問を感じる。
- ・UDCBK のミッションを実現し、主たる事業を展開していくには、現行の草津未来研究所の事業としての位置づけの方が行政との繋がりが持てることから、(現行のままで) 良いのではないか。
- ・UDCBK の存在意義について市民の理解が得られていないので、法人化は時期尚早ではないか。
- ・UDCBK がまちづくりセンターや町内会等、企業との連携の役割を果たせていない中で、法人化はまだ早いのではないか。
- ・提示されている組織体制案であれば草津市主導であり、法人化する意味が理解できない。
- ・現状のままで第三者機関的な諮問・答申する部分を強化したり、公民学のプラットフォーム機能を強化するのであれば、任意団体の方が動きやすいのではないか。
- ・法人化により草津のまちづくりを動かせるのであれば、法人化するべき。
- ・法人化によって円滑に運営ができるのであれば法人化する意義があり、まずは形から入るのも手段の一つであると思う。
- ・地域に住む人々の気持ちを重視するようなまちづくりを実現するための施策を市が行うのか、法人化した UDCBK が行うのかを考えて社会実験をする必要があると思う。そこに民間企業が入り込むことにより、さらにまちづくりが変わっていくと思う。

(他のUDC組織形態(参考))

別紙⑧-1

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
地域	千葉県柏市柏の葉地域	愛媛県松山市	福岡市香椎照葉アイランドシティ
設立年月	2006年10月	2012年10月	2014年4月
組織形態	任意団体 柏の葉アーバンデザインセンター + 一般社団法人 柏の葉アーバンデザインセンター	松山市都市再生協議会(任意団体) (事務局:松山市都市デザイン課)	アーバンデザイン協議会(任意団体) (事務局:福岡市港湾局)
公	柏市 (協力:千葉県他)	松山市	福岡市
民	三井不動産(株) 首都圏新都市鉄道(株) 田中地域ふるさと協議会	松山商工会議所 伊予鉄道(株) (株)まちづくり松山	照葉校区各種団体協議会 立地企業等連絡協議会
学	東京大学 千葉大学	愛媛大学、松山大学、聖カタリナ大学 松山東雲女子大学、(東京大学)	九州大学、九州産業大学 福岡女子大学、福岡工業大学
スタッフ	常駐スタッフ8名 受付1名 事務1名	常駐3名 非常駐6名	常駐4名
施設	東京大学社会連携拠点内 (事務所スペース分負担)	空き店舗を市が賃貸 改修費、家賃等は市が負担	市契約の民間企業本社ビル1階に テナント入居

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
資金の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>当初は任意団体柏の葉アーバンデザインセンターとしてスタート。</li> <li>アーバンデザインセンター業務に必要な施設や物品に係る経費、運営に係る人件費、プログラム等の経費は、構成団体が持ち寄り(共同負担)。</li> <li>国などの補助金を獲得するため、社団法人化を設立</li> <li>場所は、東京大学フューチャーセンターにテナント入居、事務所スペース分はUDCK負担、オープンスペースは東大負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意団体松山市都市再生協議会(事務局:松山市都市デザイン課)を設立</li> <li>松山市から協議会に対して分担金を支払い、協議会から愛媛大学の寄付</li> <li>愛媛大学防災情報研究センターが寄附講座としてアーバンデザインセンターを運営</li> <li>場所は商店街の空き店舗利用。賃借料、改修費は松山市負担。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意団体であるアイランドシティ・アーバンデザインセンター協議会(事務局:福岡市港湾局)を設立</li> <li>福岡市の協議会運営負担金から、(株)産学連携機構九州にアーバンデザインセンター運営業務を委託</li> <li>* (株)産学連携機構九州は九州大学が100%出資する株式会社です。</li> <li>場所は、福岡市が契約し賃借料を負担。</li> </ul>

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
法人化について	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市開発の拠点としてUDCを設立し、大学・企業等からの強力なバックアップがあるために人的・資金的に法人化が可能であった。</li> <li>当初は任意団体としてスタートしたが、アーバンデザインセンター業務に必要な施設や物品に係る経費、運営に係る人件費、プログラム等の経費は、構成団体が持ち寄り（共同負担）、国などの補助金を獲得するため、一般社団法人を設立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道後温泉の老朽化、都市の空洞化による賑わいの衰退の改善策として都市計画の拠点であるUDCを設立。</li> <li>任意団体松山市都市再生協議会（事務局：松山市都市デザイン課）を設立。</li> <li>愛媛大学防災情報研究センターが寄附講座としてアーバンデザインセンターを運営しているため、現時点での法人化の方針はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意団体であるアイランドシティ・アーバンデザインセンター協議会（事務局：福岡市港湾局）を設立。</li> <li>(株)産学連携機構九州は九州大学が100%出資する株式会社であり、平成29年3月31日に業務を終了。</li> <li>アイランドシティとしての拠点として存在しているだけであり、さらなる事業展開は想定していなかった。</li> </ul>

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
自治体負担の有無	あり	あり	あり
自治体負担の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営負担、運営委託</li> <li>調査研究計画策定委託</li> <li>職員派遣</li> <li>公共施設管理委託</li> </ul>	運営負担、運営委託	運営負担、運営委託
民間負担の有無	あり	あり	なし
民間負担の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究計画策定委託</li> <li>職員派遣、契約派遣</li> </ul>	運営負担、運営委託	—
独自収益事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツアー、視察収入</li> <li>公共空間活用による利用料収入</li> <li>貸しスペース利用料収入</li> </ul>	なし	なし